

平成30年度 ルールの改正点・修正点について

1. 6人制改正点・修正点

本競技規則は、2017年1月18日にFIVBより「ルールブック2017-2020」として公表されたものをもとに、2018年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

なお、2018年度版「ケースブック」のケース番号に『ビデオ』と記載した項目についてはインターネット上にサイトを作成し、ルールブック巻末にそのサイトのURLとQRコードを掲載しFIVBのCASEBOOKの動画ビデオを見ることができるようにした。

以下が本年度の主な修正点である。

●修正点

1. 規則25の「記録員」を「スコアラー」に表記を変更し、本文中の記録員をスコアラーに統一した。
2. 規則27の「線審」を「ラインジャッジ」に表記を変更し、本文中の線審をラインジャッジに統一した。
3. 付録(7)にニューフロアモッピングシステムを掲載した。
4. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。
5. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

2. 9人制改正点・修正点

本年度は、円滑でよりスピーディーな試合展開を図る観点から「選手交代」に関わるルールの改正を行うこととした。またその他、JVAに寄せられた9人制競技規則に対する意見も参考に、条文の表現を平易にしてより分かりやすいルールになるよう心掛けて編集にあたった。

なお、付録(1)特別競技規則の「小学校・中学校・高等学校」に関わる部分は、競技実態の現状を踏まえ、特別競技規則から削除することとした。

以下が本年度の主な改・修正点である。

●改・修正点

1. 第1条 競技場 (第3項以降の項番を変更・追加した)
 - 第2項 コート⇒〈第1図 競技場の規格〉を改めた。
 - 第3項 監督制限ライン⇒〈第1図 競技場の規格〉のとおり改めた。
 - 第6項 選手交代ゾーン⇒新たに追加した。
2. 第4条 チーム
 - 第1項 チームの構成

有効に登録された、9人の選手と6人以内の交代選手を「選手」と定義した。

有効に登録された、監督、コーチ、マネージャーを「チーム役員」と定義した。
 - 第2項 試合への出場

公式記録用紙に記載されていない選手を「登録外の選手」と定義した。

3. 第5条 競技参加者の権利と義務

第2項 監督

3 監督は、試合中…⇒条文を修正した。(内容の変更は無し)

4 監督は、試合途中から試合に参加…⇒この条文を削除した。

第3項 キャプテン

2 チームキャプテンは、試合開始前…⇒条文を修正した。(内容の変更は無し)

3 チームキャプテンは、試合中、…

(1) タイムアウトおよび…⇒条文を修正した。(内容の変更は無し)

(2) 自チームのサービス順を確認すること。⇒新たに追加した。

4. 第6条 試合前の準備

第1項 トス⇒項の名称を「トス」に改めた。

トスに勝ったチームキャプテンの選択を(1)と(2)に分けた。

第3項 サービス順の確認⇒次のとおり、ルールを改めた。

2 サービス順の確認時にサービス順に記載されていない選手がいたときは、チームは記載されている選手に戻さなければならない。その選手を出場させたいときは、サービス順の確認が終わり両チームの選手がコートに入った後、試合(セット)開始前に正規の選手交代を要求し、その選手をコートに入れることができる。

5. 第11条 セット間の中断⇒次のとおり、ルールを改めた。

…(略)…ただし、他の試合の妨げとならない限り、自チーム側のフリーゾーンで、ボールを使用してウォームアップをすることができる。

6. 第13条 選手交代

第1項 正規の選手交代⇒次のとおり、ルールを改めた。

2 選手交代の要求とは、コートに入る準備のできた交代選手が、選手交代ゾーンに入ることをいう。この場合、それぞれのセットの試合開始前の選手交代、およびコート内の選手の負傷や病気(以下「負傷等」という。)による選手交代を除いて、監督またはゲームキャプテンはハンドシグナルを示す必要はない。

4 選手交代は、それぞれのセットの試合開始前においても要求することができる。この場合、監督またはゲームキャプテンはハンドシグナルを示して要求しなければならない。またこの交代は、そのセットの正規の選手交代として記録する。

5 選手交代は、同時に2組以上の交代を要求することができる。この場合、コートに入るすべての交代選手は、同時に選手交代ゾーンに入らなければならない。この場合、監督およびゲームキャプテンは組数を示す必要はない。複数の交代は1組ずつ連続して行う。

6 コート内の選手が負傷等した場合を除き、同じ中断中に2回目の選手交代を要求することはできない。

7. 第14条 試合中断の不当な要求と処置

第1項 不当な要求⇒6項目から5項目に条文を修正し、(1)～(5)の順序を変更した。

(1) ラリー中、または主審のサービス許可の吹笛と同時に、その後の要求

(2) 要求する権利のない競技参加者がした要求

(3) 同じ中断中の2回目の選手交代の要求(インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。)

(4) 規定回数を超えた要求

(5) 第1サービスと第2サービスの間の要求

8. 第15条 不法な選手がプレーしたときの処置⇒条文を修正した。(内容の変更は無し)
有効に登録された選手が不法な選手としてプレーした場合と、登録外の選手がプレーした場合を分けて、その処置を記載した。
9. 付録(1)特別競技規則⇒前文を次のとおり改め、付則を「1～3」とした。
JVAが主催する競技会を含め、国内の大会に適用する特別競技規則を次のとおり定める。
なお、小学校・中学校・高等学校に関わる特別競技規則については、競技実態の現状を踏まえ削除することとした。
- 付則の1 競技場の表面からの高さは、最小限7mとする。
付則の2 フリーゾーンは、サイドラインおよびエンドラインからそれぞれ最小限3mとする。
付則の3 チーム役員の服装は、…(略)…役員全員が統一されたウェアを着用していてもよい。
付則の2…小学校・中学校・高等学校のコートの広さを削除。
付則の4…小学校・中学校・高等学校のネットの高さを削除。
付則の5…小学校・中学校・高等学校のボールの規格を削除。
付則の7…小学生・中学生のユニフォームに付ける番号の大きさを削除。
- 10 付録(2)公式記録記入法
- 1 試合前⇒⑤を「男女別」に改めた。
※サービスオーダー票⇒「交代選手番号」欄(6人分の枠)を追加した。
- 2 トスの後⇒④に「試合結果欄のチーム名を記入する」を追加した。
- 3 試合中⇒下記のとおり、(5)と(8)を合わせて一つの項目にした。
試合の遅延および不法な行為によりカードが示され、罰則を適用したときは、その罰則等に該当する欄に選手番号(遅延の場合はD)、A or B欄に該当するチーム記号、セット欄にセットナンバー、得点欄に両チームの得点を記入する。この場合の両チームの得点の記入方法は、「罰則等適用チームの得点：相手チームの得点」とする。また、__不当な要求を拒否した場合は、適用した罰則等の不当な要求欄の該当チーム(ⒶまたはⒷ)を×印で消す。
- (10)下記のとおり、条文を修正し、記載例を一部変更した。
次のようなときは、特記事項欄に、適用した事項/チーム/セット(両チームの得点)その内容の順に簡潔に記録する。
- ② 不法な選手がコート上でプレーをして、その間に得た得点を取り消したとき。
記載例； 反/B/2 (16:12) 不法な選手No.7 がプレーした間に得た4点を取り消した。
- ⑤ セットまたは試合の没収があったとき。
記載例1； セ没/B/2 (21:12) セット終了後に登録外の選手No.7 がプレーしたことを確認した。
- 4 セットが終了したとき⇒記載例の図の番号を下記のとおり変更した。
図-4を図-4-1へ、図-5を図-4-2へ、図-6を図-5へ。
- 11 その他…文章の表現・表記の平易化など、全般にわたり整備を行った。

3. ビーチバレー改正点・修正点

本競技規則は、2017年1月18日にFIVBより「ルールブック2017-2020」として公表されたものをもとに、2018年度版ルールブックの修正点を以下のようにまとめた。

また、2018年度版はルールの取り扱いについての周知を図るために6人制・9人制ルールブック同様、『ケースブック』を改訂し付録に掲載した。

以下が本年度の主な修正点である。

●修正点

1. 規則24の「記録員」を「スコアラー」に表記を変更し、本文中の記録員をスコアラーに統一した。
2. 規則26の「線審」を「ラインジャッジ」に表記を変更し、本文中の線審をラインジャッジに統一した。
3. 付録(3)公式記録記入法の2トスの後に2.2を「副審から」とした。
4. 付録(3)公式記録記入法の5備考欄に「チャレンジリクエスト」に関する手順について掲載した。
5. 監督に関する規定について新たに変更された部分を追記した。
6. ケースブックをより読み易く理解しやすいように表現を一部修正した。
7. 規則をより読み易くするため、単語訳や表記を見直し、字句を修正した。

4. ソフトバレー改正点・修正点

競技規則制定から31年を迎え、この競技の本質である「いつでも、どこでも、誰でも、いつまでも」に沿って、ソフトバレーボールが初心者の方でも、競技規則を理解しやすくするため、次のように一部を改・修正した。

●改・修正点

1 改正点

今までのルールブックは、競技規則、注解が混在した形になっていました。

注解について、既に理解されていることについては削除し、重要なことについては競技規則に取り入れ、競技規則の理解のために必要なことについては、ケースブックに移しました。

これにより、競技規則のみとした見やすいルールブックとなったこと、合せて、ケースブックを取り入れたことにより、競技規則がより分りやすくなったルールブックの構成としました。

2 修正点

- (1) 項目の表記をローマ数字から章、算用数字に修正した。
- (2) 第1章1 競技場⇒コートとサービスゾーンを区別し、注解よりチームベンチ、記録席について追加した。
- (3) 第1章2 ネットおよび支柱⇒注解よりネットの高さの調整について追加した。
- (4) 第2章1 チームの構成⇒注解よりファミリーの部の定義、試合への出場について追加し、表記全体を修正した。
- (5) 第2章2 試合への出場⇒新たに追加した。
- (6) 第2章3 競技参加者の権利と義務⇒監督、チームキャプテンの試合中の行動について修正し、注解より背番号について追加した。
- (7) 第3章2 チームの公式ウォームアップ⇒注解よりウォームアップ時間について追加した。
- (8) 第3章4 選手の位置とローテーション⇒注解より選手の位置関係について追加した。

- (9) 第3章5 試合の中断➡注解よりファミリーの部の小学生の負傷の場合、不当な要求について追加した。
- (10) 第3章6 コートの交替（コートチェンジ）➡注解よりコートの交替について追加した。
- (11) 第4章4 セット（試合）の没収➡回復のタイムアウトについて修正し、注解より例外的な交代について追加した。
- (12) 第5章1 サービス➡注解よりサービスの方法について追加した。
- (13) 第5章2 ボールへの接触➡注解よりボールへの接触について追加した。
- (14) 第5章4 ブロック➡注解よりブロックについて追加した。
- (15) 第5章5 ボールインとボールアウト➡注解よりプレーの続行について追加した。
- (16) 第5章6 プレー上の反則➡注解よりタッチネットの反則について追加した。
- (17) 第5章6 プレー上の反則➡注解よりパッシングザセンターラインの反則について追加した。
- (18) 字句と数値の修正を行った。